

北信州心臓病地域連携包括ケア推進プロジェクト事業 ～住み慣れた場所で自分らしく Face to face～

取り組みに至る背景・事業の目的

北信州は医療・福祉資源に乏しい地域で、高齢化率も高く心臓病に罹患者の多くは入退院を繰り返しているものの、多くの方は病気になっても可能な限り住み慣れた場所で、自分らしく生活を維持したいと願っている。そこで、地域のかかりつけ医と北信病院循環器専門医が主治医となり、連携するための情報交換シート（パスシート）を用いた病診連携の仕組みを構築した。

また、その運用にあたり医師会・各市町村のメディカルや介護スタッフを対象に、心不全の勉強会を開催し、連携体制を拡大してきた。

本事業を通じて、医療・保健・福祉の他職種協働による在宅支援体制を確立し、地域における包括的かつ持続可能な在宅ケアの提供を行う。

事業内容

- 1 地域連携パス部会事業
 - ・心不全ノート」の作成と運用 23人
 - ・従事者向け研修会の開催 参加者 136人
- 2 食生活改善部会事業
 - ・不全パス運用者の食生活実態調査 16人
 - ・訪問調査に関する研修会の開催 参加者 59人
 - ・一般住民への減塩についての指導・啓発
 市民公開講演会後のアンケート「減塩をしようと思った」90%
- 3 教育部会事業
 - ・住民向け公開講演会 参加者 109人
 - ・従事者向けフォーラム 参加者 111人



【従事者向け研修会】

事業効果

- 1 広域的な支援体制の強化及び知識の向上が図られた。
- 2 減塩の意識と実態の違いを確認するとともに、従事者による指導・啓発を推進した。
- 3 多職種にわたる従事者同士の役割を理解し、連携の重要性を再確認することができた。
- 4 部会に県が加わることで、行政管内の情報提供や、相談・助言などの支援により協働で行うことができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取り組みなど

- 1 今事業を基盤に支援体制の強化をするために各部会で事業を推進する。
- 2 食品に関わる多業種との連携も含め減塩環境の地域づくりを目指す。

【選定のポイント】

心臓病手帳の運用（運用者 23 名）でかかりつけ医、訪問看護、薬局、訪問介護、消防署等他職種、他業種と情報共有ができ、支援体制の強化を図ることができた。また従事者研修を 2 回開催し 136 名の参加者、心臓血管病地域連携フォーラムを開催し 111 名の参加者があった。

これまで病院や診療所、行政が単独で行ってきた取組を、情報共有化し地域一体となった取組を行うことができ、北信地域ではじめて地域の連携体制が確立された。

これを機会に協議会として症例報告会を開催し、連携パスに対する評価等を行い、より活用しやすい仕組みづくりに取り組んでいることから、今後心臓病以外の疾患での取組となることが期待される。

団体名	北信州心臓病地域連携包括ケア推進協議会	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0269-22-2151（事務局：北信総合病院地域医療連携課）	事業費	1, 125, 012円
ホームページ、メールアドレス	shinrenkyou@gmail.com	支援金額	900, 000円